

【94】 私の初詣で

例年のように紅白歌合戦を見ていたら、歌とダンスの混じったようなものが多く、本格的な歌が少なく、自分の趣味に合わなかったこともあり、家の近くの歴史だけは古い郷土神社”上目黒氷川神社”というのに初詣に出かけました。

いつもは寂しくて閑古鳥が鳴いているのに、この時ばかりは深夜なのに参拝人が長蛇の列をつくり、交通整理の人も出て大変賑やかでした。

予想外に若い人が多く、何人かのグループは待つあいだのとりとめの無い会話で盛り上がっていますし、単独の人はスマホの画面に見入って時間をつぶしています。

あたりが暗いのでスマホの画面が明るく、ついつい目に入るので覗き見すると、マンガだったり何かの動画だったりです。

社殿の前で参拝の順番がまわってくると、皆さん頭上の大きな鈴をヒモでゆらしてガラランガララン鳴らすのが切れ目なしで結構うるさいのですが、神様も今夜ばかりは張り切っておられるはずなので、そう引切り無しに鳴らすことも無いのではと思いました。

何年か前、場所は忘れましたが、初詣でで張り切りすぎてヒモを振ったのか、鈴が落ちてきて頭に当たり大怪我をしたニュースを思い出し、私は一歩退いて順番を待ちました。

それからもう一つ気になったのは、神社なのでからお賽銭のあと”二礼二拍手一礼”というのが参拝の基本なのですが、手を合わせても拍手（かしわで）を打つ人が少なく、仏式のように両手を合わせたままお願いする人が多いことです。

どうやら下手な音を立てて他人の注意を引いてしまうことを心配しているようです。

鈴のガラガラは自分では無いでしょう。

キチンと拍手を打っている人は年輩者が多いのですが、それも遠慮がちにあまり音をたてないようにしています。

へそ曲がりの私、思い切り大きい拍手をパンパーンと打ったところ、変なジイさんとばかり若者たちの冷たい視線を背後に感じて、すごすごと退出しました。

神様はわかってくれるだろうと、無料のお神酒の振舞をお代わりして二杯頂戴し、暗い中を転ばぬように急な石段を注意して降りて帰宅しました。